

【授業科目】免疫検査学特論 Advanced Laboratory Immunology

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
星野 真理、杉浦 諭	4年次後期	選択	1	15	講義	なし	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>専門基礎科目の「免疫学」、専門科目の「免疫検査学、免疫検査学実習、輸血・移植検査学、輸血・移植検査学実習」で習得した知識・技術を一つ一つの学問としてでなく、総動員して総合的に展開する能力を身に着ける。特に重要項目の各種免疫検査法の原理、感染症における免疫のしくみ、自己免疫疾患、腫瘍と検査、輸血検査学の理論、および輸血検査学の手技を中心にして、現場で用いられている最新の免疫検査法を交えて解説し、卒前教育として学ぶ。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/質問内容などについては全体にも適宜講義中にフィードバックする。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>① 免疫学、免疫検査学、輸血移植検査学で修得した知識をもとに、総合的な知識・技能を身に付けることを到達目標とする。</p> <p>② 免疫の基本的メカニズムを説明でき、免疫検査を説明できる。</p> <p>③ 輸血検査の方法を習得し結果を理解できる。</p>							
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	<p>免疫学、免疫検査学、輸血移植検査学を基礎とするので、理解した上で授業に臨むことが望ましい(2時間程度)。事後：毎回学習したポイントについて、よく復習をする。(2時間程度)</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 免疫系の成り立ちと機能、免疫グロブリンと抗原認識、補体系の生体防除に対する役割と欠損症、自然免疫と獲得免疫</p> <p>第2回 免疫検査学総論</p> <p>第3回 感染症の検査</p> <p>第4回 アレルギー検査</p> <p>第5回 自己免疫疾患関連検査</p> <p>第6回 輸血・移植検査①</p> <p>第7回 輸血・移植検査②</p> <p>第8回 輸血・移植検査③</p>						<p>星野</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>杉浦</p> <p>杉浦</p> <p>杉浦</p>	
評価方法 評価基準	<p>成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。</p> <p>学期末試験 100%</p>							
教科書	プリントを配付します。			参考書等		最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)		
学生へのメッセージ	<p>臨床現場で必要とされる知識の習得のために講義プリントと教科書を中心に勉強し、論理的に知識を積み重ねていってください。</p>							